

## 2-2 国語学

### 研究・教育活動の概要と特色

国語学専攻分野は、文学部発足当初からの長い伝統を有し、国語学の領域全般に亘って研究と教育を続けてきました。特に、国語史学と方言学については、歴代の主任教授の方針を受け継ぎ、堅実な資料収集と分析に基づいた着実な研究成果を積み重ねるとともに、学生の指導と後継者の養成に精進してきました。それに加え、最近では、現代語研究の分野においても、研究・教育に一定の成果を上げるようになってきました。

国語史学については、特に語彙の研究に特色が見られ、研究対象・目的を、従来の語史の記述から語彙史の記述へとレベルアップさせるとともに、それに見合った方法論の開発に努めています。方言学については、地の利を活かし、東北方言を中心に分析と記述を長年行なってきましたが、最近では、「東北方言研究センター」を立ち上げ、社会と連係した研究を展開しています。なお、毎年、授業の一環として方言調査を行っており、フィールドワークの技術開発や指導にも力を注いでいます。現代語研究は、留学生の増加を背景とし、現代語文法を中心に、対照研究をも視野に入れつつ研究・指導を行なっています。

本専攻分野では、各教員が自らの研究の進展を踏まえつつ責任を持って個別に学生を指導するとともに、大学院演習や研究会など、教員・学生が専門の枠を越えて互いに啓発し合う場を確保することを通して研究・指導を行なうことをモットーとしています。

### I 組織

#### 1 教員数 (2009年9月末現在)

教授：2

准教授：2

講師：0

助教：1

教授：斎藤倫明 小林隆

准教授：大木一夫 甲田直美

助教：飯田寿子

## 2 在学生数（2009年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
36	4	11	23	0

## 3 修了生・卒業生数（2005～2009年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
05	13	3	3
06	14	4	3
07	8	6	6
08	13	7	3
09	0	0	1
計	48	20	16

\* 2009年度は、9月末までの数字

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
05	1	1	2
06	2	2	4
07	4	1	5
08	2	0	2
09	1	1	2
計	10	5	15

\* 2009年度は、9月末までの数字

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

林青樺、2005年度、『現代日本語におけるヴォイスの研究—事象達成の観点から—』

審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・千種眞一、教授・小林隆、助教授・大木一夫

小林隆、2005年度、『方言学的日本語史の方法』

審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・千種眞一、教授・才田いずみ、助教授・大木一夫

玉懸元、2006年度、『日本語方言終助詞の研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・才田いずみ、教授・斎藤倫明、助教授・大木一夫、助教授・甲田直美

李光赫、2006年度、『条件表現における日中対照研究』

審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・千種眞一、教授・小林隆、助教授・大木一夫、助教授・甲田直美

小針浩樹、2006年度、『現代日本語の分の意味と機能一文の意味の形一』

審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・才田いずみ、教授・小林隆

上野智子、2006年度、『日本列島における海岸部地名語彙の研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・仁平道明、教授・斎藤倫明

李仙花、2007年度、『意味的観点からみた構文の研究－関連する構文との対照を中心に－』

審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・千種眞一、教授・小林隆、准教授・大木一夫、准教授・名嶋義直

櫛引祐希子、2007年度、『日本語方言語彙の意味変化に関する研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・後藤斉、准教授・大木一夫

新井小枝子、2007年度、『養蚕語彙の文化言語学的研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・千種眞一、准教授・大木一夫

小西いずみ、2007年度、『富山県方言の文法に関する研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・才田いずみ、准教授・大木一夫

石井正彦、2007年度、『現代日本語の複合語形成論』

審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・千種眞一、教授・小林隆、准教授・大木一夫

梁敏鎬、2008年度、『外来語の受容に関する日韓対照研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・才田いずみ、准

教授・大木一夫、准教授・甲田直美

作田将三郎、2008年度、『庶民語記録による東北地方語史研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・後藤斉、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美

楊淑雲、2009年度、『現代日本語における擬態語の研究』

審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、教授・千種眞一、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美

彦坂佳宣、2009年度、『日本語方言史の研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・千種眞一、准教授・大木一夫

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	13	7	0	0	20
06	4	8	1	1	14
07	4	4	0	1	9
08	11	2	1	1	15
09	3	0	1	0	4
計	35	21	3	3	62

\*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	1	11	10	0	22
06	1	6	7	0	14
07	1	8	4	0	13
08	1	8	8	0	17
09	0	7	3	0	10
計	4	40	32	0	76

\*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

琴鍾愛 「日本語方言における談話標識の出現傾向」 『日本語の研究』 221、2005

- 林青樺 「事象達成の観点から見たヴォイスの対立をめぐって」 『日本語文法』  
5-1、2005
- 陳志文 「新聞と週刊誌と高校教科書に見られる文体の種類と特性」 『日本語文  
法』 5-1、2005
- 佐藤祐希子 「東北方言の『ナゲル』の形成に関する一考察－宮城県石巻市方言  
の分析を通して－」 『文芸研究』 158、2005
- 琴鍾愛 「大阪方言における談話標識の出現傾向」 『文化』 68-3・4、2005
- 林青樺 「事象達成の観点から見た自動性と他動性のあり方」 『文化』 69-1・2、  
2005
- 作田将三郎 「東北方言における〈雷〉の地方語史」 『文化』 69-3・4、2005
- 李仙花 「働きかけ性が関わる『てもらう』文の意味について－使役文との関係  
から－」 『文芸研究』 161、2006
- 松崎安子 「明治期の新聞における文語文記事の文体類型－小学校理科教科書の  
文体との比較から－」 『文芸研究』 162、2006
- 松崎安子 「明治期の文語文の種類－小学校理科教科書を対象として－」 『文化』  
70-1・2、2006
- 澤村美幸 「方言伝播における社会的背景－『シャテー（舎弟）』を例として－」  
『日本語の研究』 3-1、2007
- 作田将三郎 「地方語文献資料としての庶民記録－飢餓資料・農事日記・年代記  
について－」 『日本語の研究』 3-2、2007
- 鳴海伸一 「「次第」の国語化と時間副詞化」 『訓点語と訓点資料』 119、2007
- 川越めぐみ 「東北方言から見た宮沢賢治の童話のオノマトペ」 『文芸研究』 163、  
2007
- 吉田雅昭 「東北方言における基本的時間表現形式について－形式の変化と文法  
体系との相関－」 『日本語の研究』 4-2、2008
- 佐藤志帆子 「『桑名日記』にみる近世末期下級武士の待遇表現」 『日本語の研  
究』 4-2、2008
- 澤村 美幸 「〈葬式〉を表す語方言分布の形成と社会的要因」 『日本語の研究』  
4-4、2008
- 中西太郎 「「あいさつ」における言語運用上の待遇関係把握」 『社会言語科学』  
11-1、2008
- 張雅智 「「ではないか」の断定用法」 『国語学研究』 47、2008
- 鳴海伸一 「「一所」から「一緒」へ」 『文芸研究』 165、2008

- 三浦佑子 「原因・理由を表す複合接続助詞と時制との関わり」『文芸研究』165、2008
- 津田智史 「談話からみる徳島県のアスペクト表現の今昔」『山口幸洋博士記念論集』桂書房、2008
- 王其莉 「日本語の『だろ』と中国語の『吧』」『文芸研究』166、2008
- 吉田雅昭 「青森県津軽方言地域における文末・接続表現『キャ』の用法」『文芸研究』167、2008
- 張雅智 「現代日本語における疑問文の『傾き』—肯定・否定疑問文の機能を通して—」『文化』72-3・4、2009
- ジスク・マシュー 「和語に対する漢字の影響—『写』字と『うつす』の関係を一例に—」『漢字教育研究』10、2009
- 松崎安子 「明治期の文語文による政治小説の文体類型—漢文訓読的性格を有する語の使用実態からみた文体分類—」『国語学研究』48、2009
- 鳴海伸一 「『相当』の意味変化と程度副詞化」『国語学研究』48、2009
- 吉田雅昭 「新潟方言の文末詞「テ(バ)」について」48、2009
- 楊淑雲 「〈擬態語+する〉の形式と人称制限—感情・感覚を表す場合—」『国語学研究』48、2009
- 澤村美幸 「意味変化と地域差・位相差—『スガル』を例として—」『国語学研究』48、2009
- 安本真弓 「構文的機能から見た中古形容詞の特徴—意味との関わりから—」『国語学研究』48、2009
- 王秀芳 「挨拶場面における在日中国人の言語使用—ニューカマーとオールドカマーの比較—」『文化』73-1・2、2009
- 王秀芳 「在日中国人留学生の言語使用における言語意識・言語能力の影響について」『社会言語科学』11-2、2009
- 張雅智 「『～ないか』の確認的な機能—確認要求『～ではないか』との比較を通して—」『文芸研究』168、2009

## (2) 口頭発表

- 作田将三郎 「近世後期の地方語文献資料について—宮城県を例に—」日本語学会 2005年5月
- 松崎安子 「明治期の文語文の種類—小学校教科書と新聞を対象として—」近代語研究会 2005年5月

- 新井小枝子 「群馬県藤岡市方言における『養蚕語彙』の比喻表現」 日本方言研究会 2005年5月
- 鳴海伸一 「『次第』の接尾語用法の成立と展開」 日本文芸研究会 2005年6月
- 吉田雅昭 「現代日本語の終助詞『っけ』の用法」 日本文芸研究会 2005年6月
- 梁敏鎬 「日韓大学生のアンケートから見た形容詞系外来語の受容意識」 国際学術学会東アジア文化学会 2005年6月
- 梁敏鎬 「東アジアにおける韓国語・日本語・中国語のイメージ」 韓国日本語学会 2005年9月
- 林青樺 「現代日本語における実現可能文の位置付け」 日本語学会 2005年11月
- 新井小枝子 「群馬県方言における養蚕の〈場所〉を表す語彙」 日本語学会 2005年11月
- 李光赫 「条件文の誘導推論をめぐる日中対照」 日本語学会 2005年11月
- 田附敏尚 「青森県五所川原市方言における文末形式『ンズ』について」 日本方言研究会 2005年11月
- 櫛引祐希子 「東西における意味変化のパターンに関する一考察—方言『えずい』を通して—」 日本語学会 2006年5月
- 澤村美幸 「東西対立形成の社会的背景—『シャテー（舎弟）』を例として—」 日本方言研究会、2006年5月
- 梁敏鎬 「外来語の定着に関する研究」 韓国日本日本文学会夏季国際学術大会、2006年6月
- 川越めぐみ 「東北方言から見た宮沢賢治の童話のオノマトペ」 日本文芸研究会、2006年6月
- 中西太郎 「あいさつ表現における言語運用上の待遇関係把握」 社会言語科学会、2006年8月
- 梁敏鎬 「世界28カ国（地域）における日本語観国際センサス」 日本行動計量学会、2006年10月
- 王秀芳 「中国人留学生の言語使用における個人的要因」 社会言語科学会、2007年3月
- 櫻井真美 「山形市方言『ツタラ』の用法と世代差」 日本方言研究会、2007年5月

- 川越めぐみ 「山形県寒河江市方言におけるA Bラ A Bラ型オノマトペについての考察」 日本語学会、2007年5月
- 佐藤志帆子 「『桑名日記』にみる近世末期下級武士の待遇表現」 日本語学会、2007年5月
- 三浦祐子 「原因・理由を表す複合助辞と時制との関わり」 日本文芸研究会、2007年6月
- 梁敏鍋 「外来語の使用実態及び意識に関する社会言語学的な研究」 韓国日本語学会、2007年10月
- 梁敏鍋 「韓国における外来語の使用実態と受容要因」 日本言語学会、2007年11月
- 李仙花 「反使役化自動詞文と受身文との関わりについて」 日本語学会、2007年11月
- 張雅智 「否定疑問文の機能と『傾き』」 日本語学会、2007年11月
- 澤村美幸 「<葬式>を表す方言分布の形成と社会的背景」 日本語学会、2007年11月
- 安本真弓 「中古における感情形容詞と感情動詞の対応とその要因」 日本語学会、2007年11月
- 内間早俊 「奄美佐仁方言のm > wについて—先島方言のw > bとの比較を通して—」 日本方言研究会、2007年11月
- 三浦祐子 「プラスの意味を表す複合接続助詞—「おかげで」「だけあって」におけるプラス性の違い—」 日本語学会、2008年5月
- 王其莉 「日本語の「だろう」と中国語の「吧」」 日本文芸研究会、2008年6月
- 金殷模 「「てもらう」文の基本的意味から周辺の意味へ」 日本語学会、2008年11月
- 田附敏尚 「青森県五所川原市方言における推量形式「ビョン」について—「べ」との対比をもとに—」 日本語学会、2008年11月
- 王秀芳 「挨拶場面における在日中国人の言語使用—ニューカマーとオールドカマーの比較—」 日本語学会、2008年11月
- 楊淑雲 「擬態語の程度表現について—形容詞を修飾する場合—」 日本語学会、2008年11月
- 松崎安子 「明治前期における文学的文語文の文体類型—漢文訓読的性格を有する語の使用実態による翻訳文体の分類—」 日本語学会、2009年5月



澤村美幸 「方言の分布と文化的背景—『焼畑』の名称を例に—」 日本語学会、  
2009年5月

陳劫憚 「自他交替可能性から見る複合動詞形成—構成要素の結果一致性の観点  
から—」 MLF2009、2009年7月

張雅智・田附敏尚・中西太郎・内間早俊 「疑問文じゃないですよ“？”—若年層  
における『？』」（疑問符）の使用意識—」 社会言語学会、2009年9月

鳴海伸一 「漢語『随分』の受容と程度副詞化」 日本語学会、2009年11月

津田智史 「南九州地方のアスペクト表現 —カタ・ゴッの文法化について—」  
日本語学会、2009年11月

王其莉 「日本語の『はずだ』と中国語の『应该』」 日本語学会、2009年11  
月

ジスク・マシュー 「和語『あかす』に対する漢字『明』の影響」 日本語学会、  
2009年11月

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

ジスク・マシュー・ヨセフ：漢検研究奨励賞（優秀賞）、2009年3月

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

2008年度 DC2 採用 1名

2009年度 DC2 採用 1名

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2008年度 学部 計1名 全北大学（韓国）

#### 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
05	2	13	15
06	6	13	19
07	9	17	26
08	13	14	27
09	15	13	28
計	45	70	115

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	0	3	3
06	0	2	2
07	0	2	2
08	0	1	1
09	0	1	1
計	0	9	9

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

玉懸元 中京大学文学部講師 2007年度  
林青樺 台湾淡江大学外国語学部助理教授 2007年度  
小西いずみ 広島大学大学院教育学研究科講師 2008年度  
新井小枝子 群馬県立女子大学非常勤講師 2008年度  
李光赫 中国大連理工大学外国語学院副教授 2008年度  
百留康晴 島根大学教育学部講師 2008年度  
作田将三郎 北海道教育大学旭川校講師 2009年度  
小針浩樹 台湾輔仁大学日本語文学系助理教授 2009年度

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

高校教員1名、  
ジャーナリスト1名、

## 8 客員研究員の受け入れ状況

南台科技大学（台湾）副教授（陳志文）2007年7月1日～7月31日  
淡江大学（台湾）助理教授（林青樺）2008年8月1日～8月31日  
淡江大学（台湾）助理教授（林青樺）2009年8月1日～8月31日

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

2005年度：2名（韓国・台湾）  
2006年度：2名（中国）  
2007年度：2名（中国・台湾）

2008 年度：1 名（台湾）

2009 年度：1 名（台湾）

## 1 0 刊行物

『国語学研究』（45 集～49 集：年刊）

『東北大学大学院文学研究科言語科学論集』（第 9～13 号：年刊）〔言語学専攻分野・日本語教育学専攻分野と共同で刊行〕

## 1 1 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2005 年度 日本方言研究会・訓点語学会・近代語研究会の各秋季大会の開催、日本語学会秋季大会の開催

2007 年度 日本方言研究会事務局

2008 年度 東北文化講演会「いま、方言が面白い！」開催  
シンポジウム「山田文法の現代的意義」開催

## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

国語学研究会の開催

2005 年度：6 回（第 329 回～334 回）

2006 年度：5 回（第 335 回～339 回）

2007 年度：6 回（第 340 回～345 回）

2008 年度：6 回（第 346 回～351 回）

2009 年度：5 回（第 352 回～356 回）

## 1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

国語学専攻分野は、この 5 年間、国語学の領域全般に亘って研究・教育活動を展開してきました。具体的には、当専攻分野の伝統に従って、大きく、国語史学・方言学・現代語研究の 3 分野態勢を取り、国語史学は大木一夫准教授（2003 年度赴任）、方言学は小林隆教授、現代語研究は斎藤倫明教授と甲田直美准教授（2006 年度赴任）が中心になって担当し、研究および学生指導に精力的に当たってきました。その結果、多数の大学院生を社会に送り出すとともに、多くの優秀な人材を学界へデビューさせることができました。また、学問の性質上、方言学の分野では、社会からの連系の要請が、また、現代語研究の分野では、留学生を通して東アジア諸国との関係強化の要請が強く、そのいずれに対しても、できるだけ積極的に対応するように務めてきました。その結果、当

専攻分野はそれらの方面でも高く評価されています。

具体的な当専攻分野における研究活動として第一に挙げられるのは、方言学に関する活動です。2004 年度には、「東北大学方言研究センター」を立ち上げ、以後、調査資料のデータベース化、学生の教育、マスコミの方言企画への協力等の社会的な要請に積極的に対応してきました。また、2008 年度には、東北文化講演会に協力し、「いま、方言が面白い！」を開催しました。方言関係では日本で唯一の全国学会である「日本方言研究会」の事務局も担当しています。第二に、国際交流に関して、客員研究員、中国政府派遣研究員という形で、計 8 名（延べ数）の外国人研究者を受け入れ、教員や学生との研究上の交流を図ってきました。なお、2005 年度以降、斎藤倫明教授が韓国、台湾へ出張し、日本語学に関する学会で講演を行ったり集中講義を行ったりしました。第三に、当専攻分野では、毎年 1 冊『国語学研究』という研究誌を刊行していますが、この 5 年間（5 冊）で計 60 本以上の研究論文を掲載しました。執筆者は大学院生と卒業生が中心ですが、教員や当専攻分野に縁のある全国の研究者が質の高い論文を執筆し、学界から高い評価を得ています。その他年に 5、6 回「国語学研究会」という公開の研究発表会を開催しています。

当専攻分野における教育活動として挙げられるのは、第一に、大学院生の受け入れ数の多さです。特に、当専攻分野では外国人留学生を数多く受け入れ、この 5 年間で、文学研究科で最も多い計 115 名（延べ数）の留学生を受け入れています。中心は、韓国、台湾、中国の東アジアからの留学生ですが、アメリカ、オーストラリアからも来ています。また最近では、タイやモンゴル、ポーランド、リトアニアといった従来あまり交流のなかった国からの留学生も受け入れています。第二に、学位授与ですが、当専攻分野は、この 5 年間で、課程博士を 10 名出しており、毎年コンスタントに 2 名以上課程博士の学位を授与しています。第三に、大学院生の研究活動に対する支援ですが、雑誌論文の執筆に関して、上記『国語学研究』を始め、言語科学専攻で共同発行している『言語科学論集』、文学研究科の発表誌『文化』を中心に発表するように指導しています。その他できるだけ全国学会誌にも投稿することを勧めており、この 5 年間で、日本語学会（国語学会）の機関誌『日本語の研究』に 6 本、日本語文法学会の機関誌『日本語文法』に 2 本、社会言語科学学会の機関誌『社会言語科学』に 2 本、訓点語学会の機関誌『訓点語と訓点資料』に 1 本、計量国語学会の機関誌『計量国語学』に 1 本、日本文芸研究会の機関誌『文芸研究』に 9 本というように、数多くの論文を大学院生が発表し、それぞれ学界から高い評価を得ています。なお、論文発表の前段階として、全国学会での口頭発表にも力を入れています。

最後に、特筆すべき点として、2008 年度に研究科長裁量経費を得て、研究室の初代

教授である山田孝雄博士の没後 50 年を記念し、「山田文法の現代的意義」を開催することで斯学の発展に大いに貢献したことを付け加えておきます。

以上、国語学専攻分野における過去 5 年間の研究・教育活動について述べました。

### Ⅲ 教員の研究活動（2005～2009 年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

斎藤倫明「語形成と選択制限－文法と語彙の間－」,『日本語文法』5-1,日本語文法学会,pp.121-137,2005

斎藤倫明「松下文法の活用論－文法論に原辞論は不要か－」,『日本語学の蓄積と展望』,明治書院,pp.235-254,2005

斎藤倫明「語構成と品詞－『以上』を対象として－」『東北大学文学研究科研究』58、東北大学文学研究科, pp.65-91,2009

小林隆「『しまった!』に地域差はあるか?」,『月刊言語』34-11,大修館書店,pp.30-32,2005 (澤村美幸と共著)

小林隆 「日本語方言の変質」,宮岡伯人『今、世界のことが危ない!』,クバプロ,pp.77-82,2006

小林隆「『けり』から『け』へ－古典語助動詞『けり』の地理的展開素描－」,大西拓一郎編『方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究』科研費報告書,pp.53-58,2006

小林隆「文法的発想の地域差と日本語史」,『日本語学』26-11,明治書院,pp.76-83,2007

小林隆「方言形成における中央語の再生」,『シリーズ方言学 1 方言の形成』,岩波書店, pp.1-42,2008

小林隆「言語的発想法の地域差と歴史－配慮表現に触れつつ－」,野田尚史編『日本語の対人配慮表現の多様性』科研費報告書, pp.233-246,2009

小林隆「談話表現の歴史」,糸井通浩・半沢幹一編『日本語表現学を学ぶ人のために』,pp.188-211,2009

大木一夫「喚体的な文と文の述べ方」,『文化』69-3・4,pp.38-57,2006

大木一夫 「認識する文」,『東北大学文学研究科研究年報』第 57 号, pp.1-27, 2008

大木一夫 「口語文法論としての小林好日『標準語法精説』の位置」『文芸研究』166, pp.12-24, 2008

大木一夫 「古代日本語動詞基本形の時間的意味」『国語と国文学』86-11, 2009

- 甲田直美・天野碧「文章記憶の自由再生における分散効果の研究」『滋賀大学教育学部紀要Ⅱ：人文科学・社会科学』54, pp 25-32. 2005
- 甲田直美・廣田卓也「説明的文章の要約作成と文章理解」『パイディア』14、pp.127-134. 2006
- 甲田直美 (Naomi Koda) Balancing Contextual Effect with Processing Effort: Assessment of Relevance Theory. *Culture* 70-1/2, pp. 387-400. 2007
- 甲田直美 (Naomi Koda) Connective Interference and Facilitation: Do Connectives Really Facilitate the Understanding of Discourse? *The Annual Reports of Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University*, 56, pp.29-42. 2007
- 甲田直美「テキスト理解の既定因－読み手の受容スタイルと論証パターンから」『ことばと認知のメカニズム』ひつじ書房, pp.589-601.2008
- 甲田直美「日本語のレトリックとテキスト」『人環フォーラム』23, pp.24-27

## 1- 2 著書・編著

- 斎藤倫明『近代日本語学確立期の研究』（編著）, 平成 20 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書, 107p, 2009
- 小林隆『日本のことばシリーズ 15 新潟県のことば』（共編著）, 明治書院, 255p, 2005
- 小林隆『方言が明かす日本語の歴史』（単著）, 岩波書店, 212p, 2006
- 小林隆『方言文法全国地図 6』（共編著）, 財務省印刷局, 650p（地図 60 葉）, 2006
- 小林隆『シリーズ方言学 2 方言の文法』（編著）, 岩波書店, 223p, 2006
- 小林隆『シリーズ方言学 3 方言の機能』（編著）, 岩波書店, 171p, 2007
- 小林隆『シリーズ方言学 4 方言学の技法』（編著）, 岩波書店, 221p, 2007
- 小林隆『ガイドブック方言調査』（共編著）, ひつじ書房, 212 p, 2007
- 小林隆『日本語方言形成モデルの研究』（編著）, 平成 18 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書, 123p, 2007
- 小林隆『シリーズ方言学 1 方言の形成』（編著）, 岩波書店, 222p, 2008
- 大木一夫『叙法と文の機能』, 平成 17 年度科学研究費補助金若手研究(B)研究成果報告書, 74p, 2006
- 甲田直美（印刷中）『文章を理解するとは－認知の仕組みから読解教育への応用まで』スリーエーネットワーク

## 1- 3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

### (1) 辞典項目

斎藤倫明「語と形態素」「語構成」,日本語教育学会編『新版日本語教育事典』,大修館書店,2005

斎藤倫明「日本語の語彙」、鈴木良次他編『言語科学の百科事典』、丸善、pp.315-336、2006年

斎藤倫明「形態」「形態素」「語構成」「語根」「接辞」「接頭辞」「接尾辞」「派生語」、『日本語学研究事典』、明治書院、2007年

## (2) 解説

大木一夫「係り結びの機能」,中村捷編『人文科学ハンドブック スキルと作法』,東北大学出版会,pp.116-119,2005

大木一夫「日本語史1」(平成17年18年国語国文学会の動向),『文学・語学』第190号,63-67,2008

大木一夫「古くて新しい古典文法」,阿子島香編『ことばの世界とその魅力』(人文社会科学講演シリーズIII),東北大学出版会,pp.53-88,2008

## (3) 書評

斎藤倫明「〔書評〕小林英樹著『現代日本語の漢語動名詞の研究』」、『日本語文法』6-2、2006年

斎藤倫明「〔書評〕由本陽子『複合動詞・派生動詞の意味と統語一モジュール形態論から見た日英語の動詞形成一』」『日本語の研究』3-2、2007年

甲田直美(印刷中)「石黒圭著『日本語の文章理解過程における予測の型と機能』」『日本語の研究』5-4、2009年

## (4) その他

大木一夫「日本語史1」(平成17年18年国語国文学会の動向),『文学・語学』第190号,pp.63-67,2008

大木一夫「古くて新しい古典文法」,阿子島香編『ことばの世界とその魅力』(人文社会科学講演シリーズIII),東北大学出版会,pp.53-88,2008

大木一夫・田附敏尚・鳴海伸一・安本真弓・佐藤志帆子(編)「東北大学史料館蔵小林好日(元法文学部教授)旧蔵資料目録(稿)」『近代日本語学確立期の研究』(科学研究費補助金基盤研究(C)報告書、研究代表者:斎藤倫明),pp.56-100,2009

大木一夫「東北大学史料館蔵小林好日(元法文学部教授)旧蔵資料目録(稿)解説」『近代日本語学確立期の研究』(科学研究費補助金基盤研究(C)報告書、研究代表者:斎藤倫明),pp.101-107,2009

## 1-4 口頭発表

### (1) 国際学会

斎藤倫明 講演「日本語語彙の諸相」,韓国日本文化学会,韓国国立忠南大学校,2005年10月29日

斎藤倫明 講演「複合語に見られる間接的な受身的関係について」台湾日本語文学会、台湾淡江大学、2009年12月19日

甲田直美 The Interrelationship of Reading Comprehension Processes and Summary Protocols for JFL Learners./日本人学習者における読解過程と要約文の相関  
PJPW : Princeton Japanese Pedagogy Workshop Princeton University, USA.  
2003.5.

甲田直美 Computer-Assisted Language Learning: Its Scope and Limits. The International Forum on "Educational Cooperation and Teaching and Learning Foreign Languages" 80th Anniversary of Chiang Mai Rajabhat University, Thailand  
2005.2

甲田直美 (Naomi Koda) Cultural Thought Patterns: A Case Study of Arabic and Japanese. Presented at International Symposium on Comparative Literature and Linguistics, ESCL: Egyptian Society of Comparative Literature, Egypt 2007.4

飯田寿子「並立構造からみた現代日本語における4字漢字語の語構造—包含的な結合からみた並立構造について—」韓国日本語文学会、2006年10月

### (2) 国内学会

小林隆「今、世界のことばが危ない!」、第19回「大学と科学」公開シンポジウム、東京国際交流館,2004年11月11日

小林隆「知られざる地域差を探る」,日本方言研究会シンポジウム,甲南大学,2005年5月27日

小林隆「リンクする方言研究」,日本語学会シンポジウム,甲南大学,2005年,5月28日

小林隆「東北方言格助詞『サ』の成立を現代九州方言に追う」,日本文法学会研究発表,明海大学,2005年12月16日

小林隆「方言の20世紀」,日本語学会シンポジウム,関西大学,2007年5月26日

小林隆「方言の分布と文化的背景—「焼畑」の名称を例に—」,日本語学会ポスター発表,武庫川女子大学,2009年5月30日(澤村美幸と共同)



甲田直美・廣田卓也「要約文の生成過程に関する一考察」,第45回日本教育心理学会,大阪国際会議場(発表論文集,p.817),2003.8

甲田直美「文章における論証の仕方が信念の変化に及ぼす効果」『日本心理学会第70回大会発表論文集』p.961. 第70回日本心理学会、九州大学、2006年11月

甲田直美・スライマーン アラー エルディーン「文章における論証の仕方が信念の変化に及ぼす効果 -アラビア語母語話者の場合-」『日本心理学会第71回大会発表論文集』p.181. 第71回日本心理学会、東洋大学 2007年9月

甲田直美・王其莉・楊雅銀「文章における論証の仕方が信念の変化に及ぼす効果 -中国語母語話者の場合-」第49回日本教育心理学会、文教大学 2007年9月

### (3) その他

斎藤倫明 講演「語構成要素間の関係について」,釜慶大学国際講演会,韓国国立釜慶大学校,2003年10月14日

斎藤倫明 講演:日本語語彙の分類について-語彙・語彙論とは何か-(台湾致遠管理学院国際講演会)、台湾致遠管理学院、2007年4月27日

斎藤倫明 講演「現代日本語の語彙論と他分野との関わり」台湾南台科技大学、2008年5月2日

斎藤倫明 講演「現代日本語の語彙論とその課題」台湾文藻外語学院、2008年5月3日

斎藤倫明 講演「複合語の構成要素間に見られる受身的関係について」台湾淡江大学、2008年12月5日

斎藤倫明 「言語単位から見た山田文法の組織をめぐって」(「シンポジウム 山田文法の現代的意義」)、2008年11月29日

斎藤倫明 講演「日本語複合名詞の構造について-語構成要素間に見られる使役的關係を中心に-」(国際シンポジウム「21世紀の人文科学」)韓国昌原大学、2009年10月29日

大木一夫 講演「日本語のモダリティと文の機能」,致遠管理学院国際講演会,台湾致遠管理学院,2006年12月8日

大木一夫 講演「日本語のモダリティと文の構造」,中華大学国際講演会,台湾中華大学,2006年12月11日

## 2 教員の受賞歴 (2005～2009 年度)

なし

## IV 教員による競争的資金獲得 (2005～2009 年度)

### (1) 科学研究費補助金

- 2006～2008 年度 課題番号：18520348 基盤研究(C)小林好日を通して見た近代日本語学確立期の学史的的研究 研究代表者：斎藤倫明 2,700,000 円
- 2009 年度 課題番号：21520466 基盤研究(C)山田孝雄・小林好日を視座とした近代日本語学確立過程の学史的的研究 研究代表者：斎藤倫明 1,690,000 円
- 2004～2005 年度 課題番号：14310196 基盤研究(B)方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究 研究分担者：小林隆
- 2004～2006 年度 課題番号：15320055 基盤研究(B)日本語方言形成モデルの構築に関する研究 研究代表者：小林隆 16,100,000 円
- 2005～2008 年度 課題番号：17320072 基盤研究(B)日本語の対人配慮表現の多様性 研究分担者：小林隆
- 2006～2008 年度 課題番号：18520348 基盤研究(C)小林好日を通して見た近代日本語学確立期の学史的的研究 研究分担者：小林隆
- 2007～2009 年度 課題番号：19520384 基盤研究(C)方言形成における中央語再生現象の研究 研究代表者：小林隆 1,860,000 円
- 2007～2009 年度 課題番号：19320067 基盤研究(B)現代日本語の感動詞の実証的・理論的基盤構築のための調査研究 研究分担者：小林隆
- 2009 年度 課題番号：21520466 基盤研究(C)山田孝雄・小林好日を視座とした近代日本語学確立過程の学史的的研究 研究分担者：小林隆
- 2004～2005 年度 課題番号：16720099 若手研究(B)中古語における叙法体系の研究 研究代表者：大木一夫 1,100,000 円
- 2007～2009 年度 課題番号：19520383 基盤研究(C)古代日本語における連体形の機能とその変遷 研究代表者：大木一夫 2,080,000 円
- 2006～2008 年度 課題番号：18520348 基盤研究(C)小林好日を通して見た近代日本語学確立期の学史的的研究 研究分担者：大木一夫
- 2009 年度 課題番号：21520466 基盤研究(C)山田孝雄・小林好日を視座とした近代日本語学確立過程の学史的的研究 研究分担者：大木一夫
- 2003～2005 年度 課題番号：15720123 若手研究(B)日本語学習者における「自

然な文連鎖」の認識と文章理解，文章作成能力との関連の解明 研究代表者：甲田直美 1,800,000 円

2006～2008 年度 課題番号：18720139 若手研究(B)テキストにおける「論証の仕方」と日本語学習者の文章理解・作成の関連の解明 研究代表者：甲田直美 1,500,000 円

2009 年度 課題番号：21720181 若手研究(B)読解促進材料が日本語学習者の文章理解・作成へ及ぼす効果の解明 研究代表者：甲田直美 1,040,000 円

2009 年度 課題番号：21520466 基盤研究(C)山田孝雄・小林好日を視座とした近代日本語学確立過程の学史的研究 研究分担者：甲田直美

## (2) その他

### 1) 総長裁量経費

なし

### 2) 研究科長裁量経費

2008 年度 斎藤倫明・小林隆・大木一夫・甲田直美「公開シンポジウム 山田文法の現代的意義」開催 (研究科長裁量経費)

## V 教員による社会貢献 (2005～2009 年度)

斎藤倫明 財団法人仙台国際交流協会主催日本語教師ボランティア育成講座講師 2005～2009 年度

斎藤倫明 講演：東北ゆかりの国語学者たち (宮城県民大学)、2006 年 9 月 9 日

斎藤倫明 出演：「池・沼・湖」の相違 (東北放送、ウォッチン宮城) 2009 年 9 月 9 日

小林隆 講演：東北方言の誕生 (有備館講座) ,岩出山市有備館,2005 年 10 月 20 日

小林隆 監修・出演：ことばマガジン (東日本放送) 2005～2009 年度

小林隆 講演：方言一言語の多様性を探る－ (東海高校・中学サタデープログラム) 2008 年 2 月

小林隆 出演：知ったか仙台弁 (東北放送) 2008 年度

小林隆 講演：方言は語る (宮城県高等学校国語教育研究会) 2008 年 5 月

小林隆 講演：方言の隠れた魅力 (東北文化室講演会) 2008 年 10 月

- 小林隆 講演：民話と方言（山形短期大学公開講座）2008年11月
- 小林隆 監修：仙台弁かるた（東北放送）2008年12月
- 小林隆 講演：常識を問い直す－方言から見た日本語の歴史－（東北大学入学式）2009年4月7日
- 小林隆 出演：知ったか仙台弁スペシャル（東北放送）2009年5月25日
- 小林隆 講演：仙台と方言（せんだい豊齢学園）2009年10月
- 小林隆 講演：東と西：ものの言い方、話し方（東北大学サイエンスカフェ）2009年11月27日
- 大木一夫 監修：ウォッチンみやぎ「ハロージャパニーズ」（東北放送）2006年度
- 大木一夫 講演：古くて新しい古典文法（有備館講座）,大崎市岩出山地域福祉センター,2006年12月16日
- 甲田直美 滋賀県看護教員養成講座（論理学）講師 2005年度

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2005～2009年度）

斎藤倫明

- 日本語学会評議員（2004～2009年度）
- 日本語文法学会評議員（2009年度）
- 日本語文法学会学会誌委員（2004～2009年度）
- 日本文芸研究会委員（2004～2009年度）
- 日本語文法学会学会誌委員長（2007～2009年度）

小林隆

- 日本語学会評議員（2004～2009年度）
- 日本語学会大会企画運営委員長（2006～2008年度）
- 日本方言研究会世話人（2008～2009年度）
- 日本方言研究会事務局（2007年度）
- 日本文芸研究会委員（2004～2009年度）
- 日本文芸研究会編集委員長（2008年度）

大木一夫

- 訓点語学会委員（2005～2009年度）
- 日本文芸研究会委員（2004～2009年度）

飯田寿子

- 日本方言研究会事務局（2007年度）

## Ⅶ 教員の教育活動（2009年度）

### （1）学内授業担当

#### 1 大学院授業担当

斎藤倫明

- 1 学期 日本語構造論講読 近世の言語論講読
- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅰ 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅲ 国語史・方言研究の諸問題
- 2 学期 日本語構造論特論Ⅰ 語構成と文法
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅱ 現代語研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅳ 現代語研究の諸問題
- 通年 課題研究

小林隆

- 1 学期 日本語構造論研究演習 方言調査法
- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅰ 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅲ 国語史・方言研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論特論Ⅲ 方言学的日本語史研究
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅱ 現代語研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅳ 現代日本語研究の諸問題
- 通年 課題研究

大木一夫

- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅰ 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅲ 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語構造論研究演習Ⅱ 日本語研究法
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅱ 現代語研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅳ 現代語研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論特論Ⅱ 古代日本語文法論
- 第2 学期 日本語変異論講読 中世語の研究
- 通年 課題研究

甲田直美

- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅰ 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅲ 国語史・方言研究の諸問題

- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅱ 現代語研究の諸問題  
 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅳ 現代語研究の諸問題  
 通年 課題研究

## 2 学部授業担当

斎藤倫明

- 第5 Semester 現代日本語学講読 近世言語論の講読  
 第6 Semester 現代日本語学概論 現代日本語の文法と文法論  
 第6 Semester 現代日本語学各論 語構成と文法

小林隆

- 第4 Semester 国語学概論 方言研究  
 第5 Semester 現代日本語学演習 方言調査法  
 第6 Semester 国語学各論 方言学的日本語史研究

大木一夫

- 第3 Semester 国語学概論 日本語史の方法  
 第5 Semester 現代日本語学演習 日本語研究法  
 第4 Semester 国語学各論 古代日本語文法論  
 第6 Semester 国語学講読 中世語の研究

飯田寿子

- 第3 Semester 国語学基礎講読

## 3 共通科目・全学科目授業担当

斎藤倫明

- 第2 Semester 言語学 世界の中の日本語

### (2) 他大学への出講 (2005～2009 年度)

斎藤倫明

- 宮城学院女子大学非常勤講師 2005～2009 年度  
 東京外国語大学非常勤講師 2006 年度  
 台湾南台科技大学非常勤講師 2006・2008 年度  
 国立台湾大学非常勤講師 2007 年度

小林隆

- 宮城学院女子大学非常勤講師 2005～2008 年度  
 群馬県立女子大学非常勤講師 2005～2008 年度

名古屋大学非常勤講師 2005 年度

九州大学非常勤講師 2005 年度

東京大学非常勤講師 2008 年度

大木一夫

盛岡大学文学部非常勤講師 2005～2008 年度

甲田直美

京都外国語大学大学院非常勤講師 2006 年度

飯田寿子

福島大学非常勤講師 2008～2009 年度